おおさか 環農水研 works

Apr. 2024

# 有害化学物質から府民の安全・安心をまもるために

私たちの生活は、さまざまな**化学物質**によって成り立っています。

しかし役に立つ化学物質の中にも、不適切な管理や災害・事故により深刻な環境汚染を引き起こしかねないものがあります。

濃度算定のための河川調査

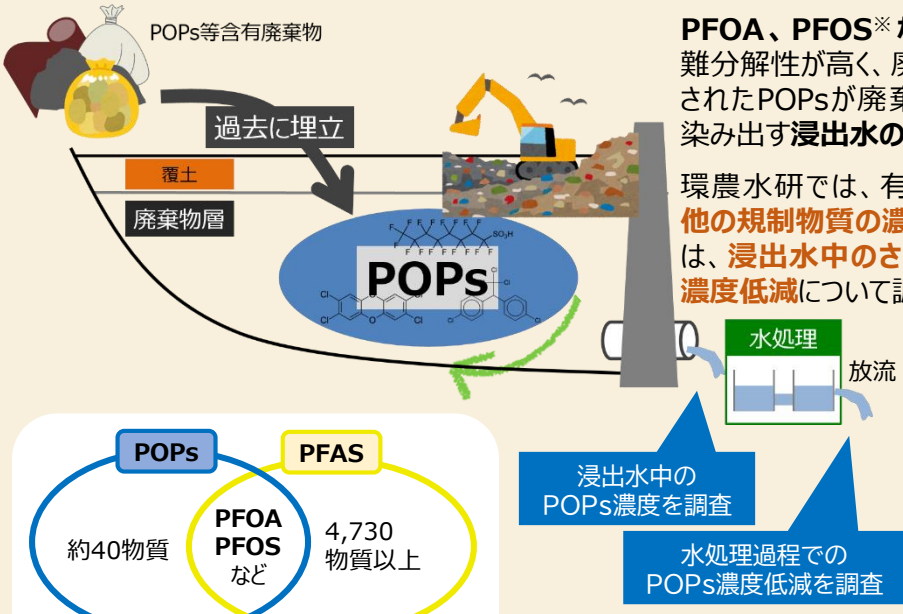
水処理施設での化学物質濃度監視

**化学物質のリスクから**
**府民の皆さまの安全・安心をまもるため**
**調査・研究を続けています**

地方独立行政法人 大阪府立
環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture

Topics

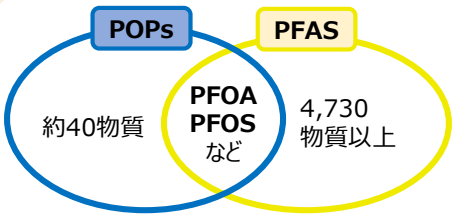
# 廃棄物処分場における有害化学物質の実態把握と処理技術の検証




**PFOA、PFOS※など残留性有機汚染物質（POPs）**は有害性・難分解性が高く、廃絶に向けた取組が進んでいます。しかし、過去に使用されたPOPsが廃棄物として処分場に埋められているため、処分場から染み出す**浸出水のPOPs濃度を調査する必要があります。**

環農水研では、有機物・塩分の濃度が高い浸出水について、**POPsと他の規制物質の濃度を同時に測定できる分析方法**を開発しました。今後は、**浸出水中のさまざまなPOPs濃度の把握・水処理過程でのPOPs濃度低減**について調査研究を進めていきます。

※PFOA…ペルフルオロオクタン酸
PFOS…ペルフルオロオクタンスルホン酸



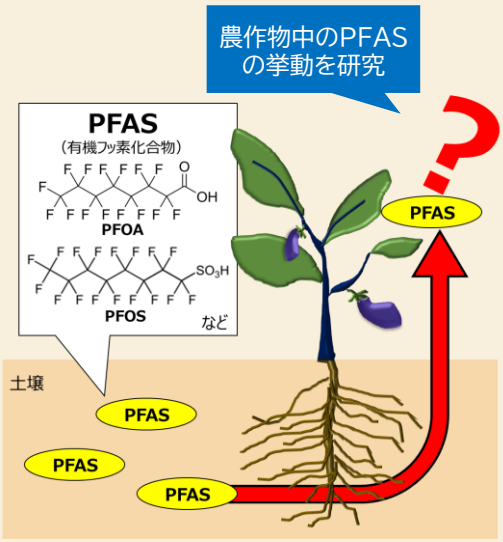
PFASのうち、PFOA、PFOSなどはPOPsに指定

微量でも生態系への影響が懸念されるPOPsを、新しい分析方法で効率的に測定し、濃度把握・低減について調査研究を行っています。
（環境調査グループ　伊藤チームリーダー）

# 農地土壌・水や農作物中の有機フッ素化合物（PFAS）に関する研究

PFASのうち**PFOA、PFOSなど**は現在、製造や使用などが規制されています。しかし、過去に環境中に放出されたPFASが水や土壌から農産物に移行し、人が農作物を摂取することによる健康影響が懸念されています。

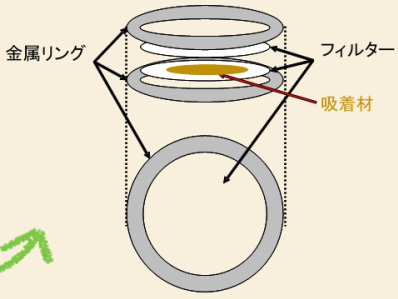
環農水研では、国の研究機関とともに**農地土壌のPFASの分析法マニュアル**（世界初）を作成しました。さらに、**農作物中などの分析法の開発**や、**農地土壌・水などから農作物への移行等**のメカニズムの解明に取組んでいます。



これまでの化学物質分析の経験を活かし、農作物へのPFAS吸収・移行のメカニズムの解明に貢献します。
（環境調査グループ　小野主査）

# パッシブサンプリング法による水環境のモニタリング

パッシブサンプリング法に使用するサンプラー




農耕地に散布された農薬などの一部は河川や湖などに流れるため、**水環境中の濃度を正確に調べて環境への影響を把握・評価**する必要があります。

環農水研では、**水環境中のさまざまな化学物質について、長期間の平均濃度を測定できるパッシブサンプリング法を開発**しました。

さらに、**災害・事故時に漏洩した化学物質のモニタリングにも応用**できるよう手法の改善を進めています。

電源が不要で災害・事故時にも活用できるパッシブサンプリング法をさまざまな化学物質のモニタリングへ適用することをめざし、研究を進めています。
（環境調査グループ　森チームリーダー）

地方独立行政法人 大阪府立
環境農林水産総合研究所
Research Institute of Environment, Agriculture and Fisheries, Osaka Prefecture
〒583-0862 大阪府羽曳野市尺度442
TEL 072-958-6551（代表）／FAX 072-956-9691
※掲載の所属は2024.4発行当時のものです